

巻 頭 言

最近思うこと

愛知県小児科医会副会長
宮田 隆夫

昭和39年4月から1年間社会保険中京病院でインターンをしたが、はじめ外科が面白く、外科医になりたいと思った。約10時間の手術の助手をし、とても体力的にできないと諦めた。内科も考えたが当時から循環器とか呼吸器など細かく専門化していた。結局、人を全体として診たいと思い小児科に入局した。小児は新生児期、乳児期、幼児期、小児期、思春期、青年期とわかれるが、赤ちゃんだった子が1歳を過ぎると急に幼児に、幼児だった子が小学校に入るころになると、急に小児になる。小児科医は子どもの発育、発達を小さい時からみており、小児科医になって本当によかったと思う。

最近耳血、CRPが採血後10分か15分でわかる機械を使いはじめた。赤血球、Hb、白血球だけでなく、白血球分画もわかり、多くは白血球とCRPはほぼ同じであるが、時に白血球が多いがCRPは正常であったり、逆に白血球は正常だがCRPが亢進していたり非常に有用で、助かっている。以前熱が高ければ原則として抗生物質を出していたが、その使用は極端に減った。大学の同級生が「医師は職人と同じで、年をとるほど腕が上がる」、また「視診、聴診、触診を重視すべき」という話があった。自分は年をとったが、腕は全く上がらず、見落とすことを考えればどうしても検査に頼ってしまう。

予防接種の普及で感染症の流行が変わってきた。麻疹などは高校生、大学生などで発生するようになった。最近、MRワクチンが中学校1年生、高校3年生に定期接種となったが、水痘、おたふくかぜ、Hibなどのワクチンの定期化がまだである。また広域化もまだ進んでいない。我々はぜひこれらが実現できるように頑張りたい。

医療費公費負担については少子化のため地域差はあるが、かなり進んできた。名古屋市は名古屋市医師会の細川 孝会長のお陰で外来は小学校卒業まで、入院は中学校卒業まで公費負担となった。できれば義務教育の終わる中学校卒業までは公費

負担となるといいが。

愛知県小児科医会例会でフランスの医療事情について聞いたが、日本の保健制度は良いので、ぜひ継続すべきだといってみえたのが印象に残っている。

医療について考えれば、最近医師不足、医療訴訟の増加など、医療崩壊が問題となっている。小児科、産科だけでなく、内科、外科も不足しているという。医師不足ということで、大学の医学部入学者の定員を増やすというが、いくら増やしても制度をもっと良くしないと同じであろう。

最近日本では羞恥心とか謙虚さというものが失われた。

若い男女が公衆の面前で抱き合ったり、電車では席を譲ったり、つめることもしない。携帯で大きな声で話したり、若い娘が歩きながら物をたべたり、タバコを吸っている。診察の時、わがままをいっている子どもをしっかりと抑えたりすることの出来ない親（特に父親）が多いなど、外国の悪い風習というか、習慣が日本に入ってきて日本に古くからある良いものが急速に失われていく。

アメリカのサブプライム問題に端を発した世界的な株価の低下、テロ、地球温暖化、必ず起きるといわれる大地震、また必ず来るといわれる鳥インフルエンザ、振り込め詐欺の多発、無差別に人を殺す事件、食べ物に毒が入っていたり、何か、世の中がおかしくなっている。

今後我々小児科医は医療だけでなく、子どもを取り巻く環境の改善に目を向け取り組むことが必要である。